

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年1月31日

配付職員数 24

回収数 23

割合 96 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない・ わからない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	19	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に応じて外出時間等の空き部屋を利用するなど事前調整をして、空き部屋を活用する工夫をしている。 ・定員33名に対して全体から見るとスペース的にゆとりはあり基準上は全く問題ないが、増築の影響など構造的に使づらくトイレの場所、小スペース、収納の不足があるため、グループ分けやパーティションの活用などで、今ある環境を子どもたちの現状に合わせて活用する工夫をしている。 	建物設備の問題と考えられる課題が多く、府中市に確認・協議しながら可能な限り改修、修繕を検討していきます。 現状の課題や経過をふまえ、将来的、計画的な市内療育の充実についても府中市に働きかけていきます。
	②	職員の配置数は適切である	1	0	22	<ul style="list-style-type: none"> ・法的には満たしているが、効果的な療育や安全確保には十分とはいえない日もあり、あゆの子全体で調整しながら進めている。 ・今年はなかなか募集人員が充足されない状況もあり、募集方法や内容についても市と協議している。 	配置基準は充分満たしています。療育環境としては更なる事業充実が図れるよう、体制整備についても府中市に働きかけていきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	16	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の限られた環境でも、できるだけ分かりやすくなるよう、グループの子どもたちの特性に考慮した使い勝手を話し合っ、パーティションや写真・絵カードなどを活用したり、動線の工夫、視覚刺激を遮る方策や部屋の使い方など状況に合わせて変更しながら取り組んでいる。が、構造上工夫に限界も感じる。 ・構造上は限界を感じるが、複雑な構造になってしまっている分、日々の生活空間の構造化は意識して行っている。 ・収納や動線など、シンプルにしたり視覚を遮る工夫をしている 	構造上の問題以外の部分は、担当職員が子どもたちの状況に応じて、変更しながら、動線の見直しや空間を仕切った環境（刺激）調整、絵カード等視覚的な情報伝達の工夫を行い、利用する子どもたちの特性に応じた対応を心掛ける。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	1	12	<ul style="list-style-type: none"> ・日々清掃を丁寧に行い、使い勝手の工夫をしている。 ・パーティション等による刺激のコントロールと動線の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃時間、振り返りや話し合いの時間など、処遇時間前後のスケジュールは都度見直ししながら有効に活用する。 ・今年度は雨漏りなどもあり、老朽化や修繕については市と協議を続ける。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	12	2	9	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ→クラス→通園→あゆの子（通園+外来）→センター→在宅福祉部→法人・市と組織、階層的に進めている。半面、事業運営に関しては法人・市の決定の元で動くことになるので、回答や対応に時間を要したり、現場の職員が関われるものが限定的になりがちであるため、会議や提案の方法やタイミングを工夫して進めている。 ・子どもにとって適切か、わかりやすい対応であったか職員同士で振り返りを行い実践するよう努めている。 	市の方向性を踏まえる必要がある事項について時間がかかってしまうことがあるが、連携をとって取り組む。 ・清掃時間、振り返りや話し合いの時間など、処遇時間前後のスケジュールは都度見直ししながら有効に活用する。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない・ わからない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	19	4	0	・今回同時に実施し検討を行った。日常的にも日々の申送りや面談などを通じ意向の把握に努めている。	事業所評価は毎年実施、第三者評価は3年に1度実施する計画。形式のある意向調査だけでなく、職員は保護者の皆様と日常的に意見交換できる関係性の構築を心掛ける。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16	6	1	・今回自己評価としてガイドラインに基づいて実施し、結果は掲示板とホームページで公表している。	評価内容、ご意見について職員で検討し、改善や市への報告を行う。結果については掲示板とホームページにて公表する。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14	8	1	・福祉センター内での各事業を順番に受審できるよう予算化している。	あゆの子としては3年に1回の受審となり、令和2年度に実施の予定。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	22	0	1	・年間を通じ研修の設定は多く、積極的に参加している。 ・それぞれの専門職の立場から講師として担当職員の資質向上にむけ、その時課題と思われる内容をタイムリーにテーマとして実施。	職員の資質向上は常に重要課題としてとらえており、年間計画を立てて取り組む。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	19	2	2	・支援計画作成にあたり重要・不可欠ととらえ取り組んでいる。 ・日常的な子どもの様子や成長の状況に加え、心理士、作業療法士、言語聴覚士など専門職の参画によるアセスメントも実施し、家族に確認しながら支援計画を作成している。	引き続き、ご家族と保育士・指導員・心理士・作業療法士・言語聴覚士等の多職種の協働で作成。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	16	6	1	・発達面は標準的には発達検査を用い、生活動作等についてはケース記録ソフトを活用している。	引き続き発達検査の客観的指標を活用して対応し、さらに日々のツールについてソフトの活用が有効となるよう取り組む。アセスメントツールとしての発達検査の活用について職員研修等で更に理解を深める。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14	8	1	・「発達支援」を核に、「家族支援」「地域支援」が課題となる場合には支援計画にも記載している。	「本人支援」と比べると「家族支援」「地域支援」の視点が弱くなりがちである。支援計画作成にあたり、様式を改定し、アセスメント・モニタリングの時点で検討の視点がもてるよう意識し、研修等でも取り組む。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	19	2	2	・計画を意識し、目標など到達できているか見直しが必要か、振り返るようにしている ・職員全体で確認したり、モニタリングする機会をつくり支援計画に沿って支援を行っている。 ・職員全体で日常的に支援計画を意識できるよう保管場所等の工夫を行った。	引き続き、計画を意識した日々の支援が有効に実施できるよう、チーム協働で取り組む。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない・ わからない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	16	2	5	・クラス、グループごとに担当が原案を作り皆で見直し、専門職の視点も取り入れ、チームの協働で取り組んでいる。	引き続き、チームの協働でプログラムに取り組んでいく。全職員が参画できるよう常勤から意識して働きかける。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	18	2	3	・プログラム名は同じでも、取り組みの状況に合わせて少しずつ課題を上げるなど、部分的に変更しながら子どもの様子に合わせて取り組んでいる。 ・固定しないことが良いのではなく、繰り返すことの大切さも重視したい ・繰り返しが有効かどうか、次の課題に移れるか子どもの実態と状況を見ながら計画を立てている。	プログラムが「固定しない」ことを意識するのではなく、必要な課題をプログラムに取り込み、繰り返すことで見通しを持って取り組みスモールステップで成長を支援していくことを目指す。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	15	5	3	・集団活動による療育を原則としているが、個々の発達度合に合わせて、活動内容によっては個別での支援や小グループを取り入れている。	児童発達支援計画では日々の細かいプログラムの対応（個別か否か）まで踏み込む部分は少ないが、週案・日案の中で集団の大きさや個別対応の必要性を踏まえたプログラムを策定する。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	20	0	3	・朝の他事業と共通のミーティング時間を短縮し、打合せ時間の確保を図った。 ・活動準備や連絡調整で十分時間が取れないこともあり、ホワイトボードや周知事項ノートで代替している。 ・朝は短時間でも必ず話し合い、確認してから活動に臨んでいる。	限られた時間の中で工夫をして実施している。活動時間前後のスケジュールは都度見直しを行い少しでも有効に活用したい。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14	3	6	・共有しあう時間は必要と考え大切にしている ・短い時間でも日々の変化の共有を行うようにしている ・必ず、とまではいかず常勤職員が会議や外出などで不十分な場合がある ・ケースやプログラムについて、職員の対応、などについて振り返りを行っている。	出勤日や業務の関係で全員で行えない場合もあるので、申し送りノート等の活用を徹底する。他の手段についても検討し少しでも有効に振り返りを蓄積することを目指す。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	4	6	・変化や支援の変更等の記録、家庭からの情報等入力している ・共有しやすいようデータベースソフト導入しているが、記録時間が十分とれないこともある。	記録時間が取れなかったり、振り返りの持ち方によっては徹底できていないと感じる場合があるため、申し送りノート等を活用し、適切な記録が残る工夫をする。個人差やグループ差が生じないよう、記録の必要性の意識ポイントなど職員相互で確認する。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	15	5	3	・日々の振り返りや家族との申し送り等の情報と、専門職との定期的なミーティング、ケース会議等をモニタリングの機会とし、見直しにつなげている。 ・昨年度作成したモニタリングの書式を活用して実施している	モニタリングが日常的にできるよう、作成した様式がより有効に活用できるよう、ケース検討等を計画的に実施する。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない・ わからない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携関係機関 や保護者との 連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	15	7	1	・相談支援事業所の利用者が少なくあまり開催がない現状ではあるが、児童発達管理責任者が参画している。担任の出席体制が作れると良いが、療育時間と重なり難しいことが多い。 必要な課題がある場合のケースカンファレンスは障害児相談支援事業所の要請を待たず、主体的に実施するようにしている。	サービス担当者会議に限定せず、機関の連携や調整が必要な場合は、働きかけもしくは主催をしていく。（相談支援事業所を利用していない方が多いため）
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	20	3	0	・必要な情報共有は常に意識して行っている。連携のための話し合いも実施した。	必要なタイミングで関係機関の連携が取れるよう、情報共有や働きかけをしていく。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	17	6	0	・今年度は対象児童は在籍していない。 ・卒園、退園の場合、必ず引継書を作成し、配慮点を説明できる体制となっている。	対象児がいる場合、主治医の指示を得ながら必要な機関と連携し適切な支援を行う。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	13	10	0	・今年度は対象児童は在籍していない。 ・協力医療機関とは月1回定期カンファ、他医療機関とは必要に応じ文書でのやり取りなどを行っている。 ・座薬やアレルギーの対応など主治医からの指示を得てマニュアル作成している。	対象児がいる場合、主治医の指示を得ながら必要な機関と連携し適切な支援を行う。 非常勤職員や対象児のいないクラスのスタッフも目的理解できるよう情報共有をする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16	7	0	・書面及び訪問等の方法で本事業所（あゆの子）の目標、配慮、支援の経など引継書とともに説明をしている。	引き続き実施、非常勤職員や対象児のいないクラスのスタッフも目的理解できるよう情報共有をする
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	17	6	0	・書面及び訪問等の方法で本事業所（あゆの子）の目標、配慮、支援の経など引継書とともに説明をしている。	引き続き実施、非常勤職員や対象児のいないクラスのスタッフも目的理解できるよう情報共有をする
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	18	4	1	・障害児療育研究会（合同研修会や職員の交換研修等） ・児童発達支援事業連絡会 ・施設見学	引き続き実施、対象者以外の職員にも情報共有する
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20	1	2	・保育所体験を実施し、市立保育所2カ所と交流。今年度年長児、在園1年以上の児が実施した。	引き続き受け入れ園とも協力しながら実施したい。その他の方法についても可能性を検討し、園に働きかけていきたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	6	11	・法人、施設として代表者を選出し、参加している。	引き続き実施、対象者以外の職員にも情報共有する
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	21	1	1	・朝の受け入れ、帰りの申し送りで日々実施。 ・朝の受け入れでは一人ずつの親から健康状態の聞き取りなどをし、相談があった場合は助言を行っている。	職員間の連携や相談を心掛け、必要な情報や課題の共有を円滑にする。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない・ わからない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラムの支援を行っている	15	5	2	・両親学級、勉強会等を実施。 ・毎日の家族からの聞き取りの中で、発達段階や特性に合わせた具体的助言を心掛けている。	引き続き実施、参加できない職員とも情報共有する
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	16	6	1	・契約時や年度初めに実施している。	引き続き実施。非常勤の職員にも周知する。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	20	3	0	・面談や家庭訪問で実施。 ・個々の子どもの現状に応じ優先的に取り組む課題を考慮しながら具体的支援内容を説明し話し合う時間になっている。	引き続き実施。非常勤の職員にも周知する。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	21	2	0	・日々保護者からの相談を受け一緒に考えながら支援を進めている。時間を要するものは数回に分けて継続したり、面談日や専門職の助言の機会をつくるようにしている。	引き続き実施。対応が遅い、流されてしまう等のご意見をいただいているため、再度対応について確認を行った。担任間や専門職、児童発達管理責任者・管理者（施設長）・係長・主査など、役割と相互の相談協力体制を確認しスムーズな対応を心掛ける
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20	3	0	・あゆの子親の会、懇談会、父の会 ・定期的に実施している。	引き続き実施。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	18	4	1	・返答はできるだけ間を開けず返すことを心掛けている。 ・個人レベルで回答できるものはその場で、持ち帰る必要があるものは時間をいただくができるだけ迅速に対応できるよう努力している。	引き続き実施。対応が遅い、流されてしまう等のご意見をいただいているため、再度対応について確認を行った。担任間や専門職、児童発達管理責任者・管理者（施設長）・係長・主査など、役割と相互の相談協力体制を確認しスムーズな対応を心掛ける
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	17	7	1	・毎月お便りを発行している。又、掲示板を活用し新しい情報を伝えている。	よりわかりやすい情報提供を心掛ける。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	23	0	0	・法や個人情報保護規程に基づき、緊張感を持って行っている。	研修を実施し、重要性を意識してより一層緊張感をもって対応する。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	19	3	1	・なるべく視覚的視点から伝わりやすいよう心掛けている。	引き続き実施。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	19	4	0	・センターまつりや地域交流イベントを福祉センターとして実施している。活動や施設を知っていただく機会として、また卒園した子供たちが足を運ぶ機会ともなっている。	引き続き実施。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない・ わからない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	21	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアルを整備しており、必要な訓練を実施している。 マニュアルを常に見られるよう、訓練室内に置き場を整備した。 	説明会等での周知、掲示や配付、訓練の調整（施設全体で行うものもあり）をする。職員が日常見やすい場所にマニュアル設置し周知を確実にする。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	18	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を立て実施している。 	内容、回数、形式的でなく実際に活かせるようにしたい等に対する意見がある。施設全体で実施し他係とのプロジェクトで計画するため、本事業所（あゆの子）として必要性を伝え調整していく。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	20	2	1	<ul style="list-style-type: none"> 健康調査票等で把握し、最新の情報は家族から聞き取ったものを情報更新している。非常時も持ち出し名簿を整備している。 	引き続き実施。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	20	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 医師からの指示書を受け職員間で情報共有、慎重に配慮、注意をしている。 今年度はアレルギーに関するマニュアルを改定し、指示書等の書式を整備した。 	改定マニュアルに沿って実施している。実施する中で使い勝手を確認し、さらに改善事項があるか見直していく。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	16	5	2	<ul style="list-style-type: none"> 細かな気づきに関して伝達しあい、事故を未然に防ぐ努力をしている 係会議、全体ミーティング等で確認することで、非常勤職員にも周知されてきている 	非常勤職員や専門職からも日常のヒヤリハット（気づき）が挙がるよう、日々の振り返りや会議を通し意識付けしていく。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	19	3	1	<ul style="list-style-type: none"> 年に1回以上研修を実施し自己点検している 職員相互がチェック機能となるよう意識している。 	引き続き実施。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	14	8	1	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画に共通項目を設け記載している 	引き続き実施、非常勤職員との共有に努める。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。